

県外派遣報告書

審判員名（報告者）	岡山 幸二	所 属	社会人連盟
大会名	令和7年度 関東高等学校男子バスケットボール大会 兼 第79回関東高等学校男子バスケットボール選手権大会		
期 間	2025年 5月31日 ～ 6月1日（参加日：5月31日～6月1日）		
会 場	京王アリーナ TOKYO（旧：武蔵野の森総合スポーツプラザ）		
ス ケ ジ ュ ー ル			
期 日	内 容	場 所	
5月27日	審判会議、研修会	ZOOM 会議 参加者自宅他	
5月31日	大会1日目	京王アリーナ TOKYO	
6月1日	大会2日目	京王アリーナ TOKYO	
審判会議、研修会 講義内容			
<p>●挨拶</p> <p>東京都バスケットボール協会 専務理事 針生淳男 様 ほとんどの方が本職の仕事しながら都合をつけて参加することへの謝辞と体調万全で当日を迎えてほしい旨の挨拶があった。</p> <p>関東バスケットボール協会 審判委員長 平原勇次 様 大会参加への謝辞と関東の審判員のレベルの高さの現状、今大会が WC の枠を決めるにあたって重要な意味を持つことが審判員としても大事だがチームの為に2日間よろしくお願いします。と挨拶があった。</p> <p>●指名審判員レクチャー</p> <p>茨城県バスケットボール協会 S級審判員 菊池瑞昭 様 本年よりS級審判員として活動する中で努力してきたこと、感じてきたこと、大切にしてきたこと</p> <p>・覚悟 年齢が高いこともあり、ライセンスを返さないといけないことも考えての【覚悟】【決意】</p> <p>1 試合 1 試合の中で責任を持つての【覚悟】</p> <p>・準備 準備をするためには【在り方】や【準備の大切さ】【自分が出来ることは？】を考え直して良い準備に繋げる</p> <p>・変化 昨日より今日、今日より明日、右肩上がりに上がっていくといいが、目に見えて変化することは難しい。</p> <p>2 週間後の変化やその積み重ねが3か月後、半年後の変化に繋がっていく。その為に振り返っていく。（自分の時間をつくる）</p> <p>【レフリー活動】において</p> <p>・審判がうまくなりたい、ゲームを沢山吹きたい、ライセンスを変えたい 一方で、仕事が忙しい、家族との時間も確保したい、家事・育児もある、プライベートな時間も欲しい、そんなに審判の事ばかり考えていけない等の感情も入り混じる</p> <p>殆どの方が、仕事があつてのレフリーだと思うので比重の在り方、それが【覚悟】 職場と家族の理解が合つて、そこには【感謝】の気持ち</p> <p>菊池様を取り組んだ一例として【考える習慣】をつける→時に考え過ぎて迷いが生じる→考えて考えて考え抜く→今まで気づかなかつた様々なところに気付く→これが【準備】につながる→自然にできるようになっていく→準備ができるようになると【覚悟】が生まれる</p> <p>【覚悟】を持つことは【責任】を持つことに繋がるので【このゲームの為に】という考えになっていく。</p> <p>判定の合っていた間違っていたことも大事だが、どうゲームが進んで終えていったのか、選手の感情はどうだったのか、リスペクトが合ったうさでの言動だったのか、覚悟が生まれるとレフリーへの取組方が変わる</p> <p>ゲームのためにチャレンジ→成功と失敗→振り返り・課題設定（座学）→チャレンジ※繰り返し</p>			

ゲーム前に言い聞かせること。レフリーの危険な心に繋がる

【慢心】【過信】【安心】→【謙虚に】

【リスペクトを持つこと】

選手、チーム、関わる人、レベルカテゴリ関係なくリスペクトの想いを持って臨む

神奈川県バスケットボール協会 S級審判員 加納康平 様

【良い審判とは何ですか、、、？】

メカがちゃんとできる、判定がちゃんとできる、プレゼンがちゃんとしている、人として尊敬できる、などなど

【自分がどんな審判になりたいか、ビジョンを描く】

この二日間で劇的に変わることは難しいが、何かに近づけることは出来るはず。せっかくなので、チャレンジ！

その為に、選手やコーチとたくさんコミュニケーションを取る。特にコミュニケーションを1往復で終わらせない。

ゲームの進行を妨げない程度にコミュニケーションを取る、沢山コミュニケーションして選手のガスを小さくしてあげる

自分が言いたいことを言うためには、まずは傾聴の姿勢から。

今大会を迎えるにあたり・・・高校生を高校生扱いしない。選手として相手をリスペクトし、相手からもリスペクトされるように沢山コミュニケーションを取ることを、判定のヒントはそこら中に落着いている。

担当試合①

期 日	5月31日(土) 1回戦
対戦カード	前橋育英(群馬) vs 東海大菅生(東京)
ク ル -	CC:佐田 幸一氏(山梨) U1:猪股 祐介氏(千葉) U2:岡山 幸二(埼玉)
ミーティング内容	審判主任:平出 剛氏(栃木・指名)

▶ゲーム前のPGC

チームの特徴、キープレイヤーの確認。各都県での結果の共有。

まず初めに整理したいことの確認。ベーシックなメカニクスと起こり得そうなケースの確認をしてゲームに臨みました。

▶ゲーム後のミーティング

トラベリング・倒れるプレーヘメッセージがあるとよかった。そのメッセージが全体としてファールの総数を1, 2個減らせたのではないかな？

3vs2のポジションアジャスト、判定は間違っていないものの、もう1歩早く取り組む。精度とプレゼン、デリバリーをより追及。

怪我の対処をクレーワークで誰が何を的確にできるとなよかった。

集まってコミュニケーション、確認したケース、しなかったケース、デリバリースキスを考えたときにしなかったケースは集まった方が良かったかもしれない。

担当試合②

期 日	6月1日(日) 準決勝
対戦カード	横浜清風(神奈川) vs 土浦日大(茨城)
ク ル -	CC:松岡 悠貴氏(東京) U1:阿久沢 尚夫氏(群馬) U2:岡山 幸二(埼玉)
ミーティング内容	審判主任:岩井 遥河氏(東京)

▶ゲーム前のPGC

初日のゲームからチームの特徴とキープレイヤーを共有し、留学生の有無の確認、高校らしいバスケの展開の予測とベーシックなメカニクスの確認をしてゲームに向かいました。

▶ゲーム後のミーティング

オリジナルセンターでの判定の参加。このゲームで私を印象付ける全てであったと振り返ります。ゲームでは何事もなくリードがプレイコールしましたが、メカニクスで考えたときにオリジナルセンターで厚く長くプレーを見ていた私が判定に参加すべきでした。厳しく突詰める審査会であればこの1プレーの判定で結果が決まるときえ振り返ります。

1Qで取り上げたリバウンドファール、バスケットカウントにしたプレイコールの精度。マージナルでもいいケースの見極め。その後の修正

力。

リードでのヘルプディフェンスのプレーの確認。AtoB っほいなあ、、、根拠ある場所へポジションアジャスト

プレゼンテーションについては拘りをもって取り組んでいるのが伝わってきた。特に強さ・声だけでなく右手と左手の使い方。

全体の感想

この度は移籍後、間もない私をブロック大会へ派遣頂き心より御礼申し上げます。

はじめましての方がほとんどの中で、まず本年 1 月に埼玉県へ移籍してきたこと、それまでは広島県で 2 年、愛媛県で 4 年（ここで A 級に昇格したこと）地元は福岡県であることを皆様一人ひとりに挨拶申し上げます。中には共通のレフリー仲間やインターハイ、全国大会でクルーになった方もいらっしゃる、初めての関東はこれが関東なのか、、、と規模感や熱気ぶりを肌で感じた次第です。

審判会議のレクチャーの中で茨城県菊池様が何度も【覚悟】【責任】というキーワードを仰っておりました。移籍を繰り返している私もある種、覚悟と責任を毎試合感じており、1 試合 1 試合が審査会のような気持ちで臨んでいることを客観視することが出来ました。

ゲームでは強さ・プレゼンテーションを軸に根拠ある判定と選手・チームに寄りそった対応を心掛けました。強さについては、会場が京王アリーナ TOKYO で 4 コートあったこともあり、いつもの強さでは全然足りないな。と開始早々に感じました。感覚的な話になりますが、いつもの強さの 10 倍ぐらいでやっと強さを感じるレフェリングかな？と感じた次第です。この部分については、会場の規模、熱気、総合的に考えて強さの尺度を力にしていきたいと強く感じました。判定については合っている間違っているに関わらず、メカニクスとして【より速く】や【もう一歩】といった部分で IR とクルーと振り返り、判定の精度はもちろん、エビデンスの取り方にひとプレーごとに命がけで判定していく、後悔なきよう判定していくと中身と深みのあるレフリーに近づけていきたいと思います。

今大会で学んだこと感じたこと、経験を自身の力に変えていくこと、所属している社会人連盟はじめ県内での仲間とも良い形でお伝えし自身の成長、仲間の成長へ寄与していきたいと思います。

今大会、派遣にあたり埼玉県バスケットボール協会の皆様、お世話になりました東京都の皆様、関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

県外派遣報告書

審判員名（報告者）	村上 翔	所 属	U12 カテゴリー
大会名	令和7年度 関東高等学校男子バスケットボール大会 兼 第79回関東高等学校男子バスケットボール選手権大会		
期 間	2025年 5月31日 ~ 6月1日（参加日：5月31日）		
会 場	京王アリーナ TOKYO		
ス ケ ジ ュ ー ル			
期 日	内 容	場 所	
5月27日	審判会議、研修会	ZOOM 会議 参加者自宅他	
5月31日	大会1日目	京王アリーナ TOKYO	
審判会議、研修会 講義内容			
<p>●指名審判員 茨城県 菊池瑞昭 氏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・覚悟、準備、変化が重要である 「日頃から考える習慣をつける→迷う→考える→気付きが見つかる→準備をする→習慣となる」ということの繰り返しである。 ・謙虚に取り組み、危険な3つの心「慢心・過心・安心」に注意して、試合を担当していく。 <p>●指名審判員 神奈川県 加納康平 氏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・良い審判とは何か？ どのような審判になりたいか具体的なビジョンをもつ ・コミュニケーションをとることが重要である 選手やベンチとの会話を1往復で終えないようにチャレンジする。会話の中に判定へのヒントが多くある。 意図的に会話を作り出し、審判側の思いを伝えるためには、まず傾聴が大切である。 ・アンダーカテゴリーの試合だからといって、子供扱いするのではなく、1人の選手としてリスペクトをもって接する ・自分の判定に対して、疑いをもつことが大切である 			
担当試合①			
期 日	5月31日（土） Aブロック1回戦		
対戦カード	國學院大學久我山高等学校（東京） vs 栃木県立宇都宮工業高等学校（栃木）		
ク ル ー	CC：岩井遙河 氏（東京） U1：三角峻 氏（神奈川）		
ミーティング内容	審判主任：目崎一将氏（東京）		
<p>前半でそれぞれのプライマリアの中で、良いコールがあった。その中でも、両校の身長差があるペイント周辺の整理をゲーム序盤で出来たことが良かった。後半はスムーズに進んでいく中で、プライマリアではない所に視野が当たってしまうことがあり、不要なダブルコールに繋がってしまった。何も無い時間帯だからこそ、プライマリアに集中して判定していきたい。</p>			

担当試合②	
期 日	5月31日（土） Aブロック2回戦
対戦カード	八王子学園八王子高等学校（東京） vs 湘南工科大学附属高等学校（神奈川）
ク ル ー	CC：加納康平 氏（指名） U2：原弘高 氏（東京）
ミーティング内容	審判主任：細田知宏 氏（東京）
<p>コミュニケーションにチャレンジしている姿、また不要なコールがなく良かった。ノーコールで進められるものは進めていく中で、留学生の周辺のプレーやリバウンド時の触れ合いには笛が入っていた。一方で、コミュニケーションの取り方や場所、タイミングは工夫していく余地がある。また、プレゼンテーションについても身長を活かし方など工夫が必要である。</p>	
全体の感想	
<p>はじめに、今大会の開催にご尽力いただきました東京都協会の皆様、そして派遣していただきました埼玉県協会の皆様に感謝申し上げます。</p> <p>今大会はレクチャーでもあった、コミュニケーションを意識して取り組みました。意識して会話を2～3往復できるようにしたり、抽象的な会話を具体的にしたりということは、これまでにあまり取り組んでこなかった視点でした。実際に取り組むことで新たな発見も多くあり、これからも継続して取り組む必要性を感じました。トップリーグを担当されている方や各都県の審判員の方々とクルーを組ませていただき、自らの更なる技術向上の必要性を強く感じた大会となりました。</p> <p>今回の経験を今後の活動に生かしていくと共に、還元できるよう精進して参ります。ありがとうございました。</p>	

県 外 派 遣 報 告 書

審判員名（報告者）	小山洋一	所 属	社会人連盟
大会名	令和7年度関東高等学校男子バスケットボール大会 兼 第79回関東高等学校男子バスケットボール選手権大会		
期 間	2025年5月31日～6月1日（参加日：5月31日）		
会 場	京王アリーナ TOKYO		
ス ケ ジ ュ ー ル			
期 日	内 容	場 所	
5月27日	審判会議、研修会	ZOOM 会議	
5月31日	Bブロック1回戦	京王アリーナ TOKYO	
6月1日	見学	京王アリーナ TOKYO	
審判会議、研修会 講義内容			
<p>●指名審判員レクチャー</p> <p>茨城県 菊池瑞昭 氏 「上級審判員になる為に」</p> <p>上級審判員になる為に『覚悟』、『準備』、『変化』の3つを意識して取り組んだ。</p> <p>『覚悟』・・・自分の決意（ゴール）に向けてどのように向き合って取り組んで行くか？</p> <p>『準備』・・・自分ができることは何か？</p> <p>『変化』・・・昨日より今日、今日より明日。目に見える変化を作ることは難しいが、そこに至るまでの努力を積み重ねる。</p> <p>覚悟を持つ為の準備として向上心を見えるもの（変化）にしていく。小さな変化を積み重ねていく。</p> <p>課題設定→チャレンジ→成功・失敗→振り返り→新たな課題</p> <p>考える習慣を作ることで、今まで気付かなかった新たな気づきが生まれ、『準備』へとつながる。</p> <p>『準備』ができると『覚悟』や責任感が生まれる。</p> <p>レフリーの危険な心：慢心・過信・安心を持たずに謙虚に取り組んでいく。</p> <p>●神奈川県 加納康平 氏 「良い審判とは？」</p> <p>良い審判の要素として、正しい判定ができる、選手・コーチがストレス無くゲームに集中できる、ルールやメカの理解、カッコいい、プレゼンなどが挙げられる。色々な答えがある中で、『自分自身はどんな審判になりたいのか？』ビジョンを持って取り組んで欲しい。</p> <p>ビジョンを持ったからといって、何か大きな変化をすることは不可能だが、近づくことは可能。目的意識を持ってチャレンジする事で、新しい気づきや自分を変化させるきっかけを見つけていく。</p> <p>高校生の関東大会ではあるが、高校生と思わずに一人のプレイヤーとして接して欲しい。</p> <p>その為にも、選手やコーチとのゲーム中に必要なコミュニケーション（会話）を意図的に増やすことにチャレンジして欲しい。</p> <p>一回のやり取りでは無く、何回もラリーする事。（ラリーは何度でも作れる）</p> <p>何回もラリーする事でインテンシティーをコントロールや気になっている事を聞き出す。</p> <p>時には自分が伝えたい事もあるが、伝える時は一方的にならずに自分が伝えたい事を言うときは、まず『傾聴』の姿勢を持つこと。</p>			

担当試合①	
期 日	5月31日(土) Bブロック1回戦
対戦カード	桐生第一(群馬県) vs 成立学園(東京都)
ク ル ー	CC:長沼 大平 氏(山梨県) U1:金子 航 氏(千葉県) U2:小山 洋一(埼玉県)
ミーティング内容	審判主任:一色 渉 氏(茨城県)
<p>▶ゲーム前のPGC</p> <p>それぞれが自分のプライマリー内の判定をしっかりとできるように、ベーシックなメカニクスの徹底。 プレイヤー、コーチとの意図したコミュニケーションのチャレンジ、クルー同士でのコミュニケーションも増やしていく。 成立学園の練習試合の映像を見て、キープレイヤーの確認。桐生第一のキープレイヤーをゲーム中早く見つけて共有。 桐生第一に200cmの選手がいるのでリバウンドや成立学園の守り方に注意しましょう。</p> <p>▶ゲーム後のミーティング</p> <p>片方のチームにファウルが積まれていきバランスが悪いと感じてしまっていたが、実際に起こっている事なので深く考え過ぎない。 どちらかといえば判定の内容、プライマリーはどうだったのか、メカニクスはどうだったのか、チープなものを取り上げていないか、POC、などにフォーカスしていく。</p> <p>トリプルコールが起こってしまったケースが何度かあった。一回目に起こった時にもう一度プライマリーを確認、意識しようというリマインドして繰り返さないようにしていく。</p>	
全体の感想	
<p>はじめに、東京都バスケットボール協会及び東京都高体連バスケットボール専門部の皆様、指名審判員の皆様、各都県の派遣審判員の皆様、には細部にわたるご配慮頂き大変お世話になりました。また、今大会に派遣して下さった埼玉県協会、日頃活動をご一緒している県内審判員の皆様へ、この場を借りて御礼申し上げます。</p> <p>担当した1試合で感じたのは、プライマリーを尊重すること、どのようにして共通した認識でメカニクスを最大限活かして判定していくのか、クルー間でのコミュニケーションの取り方、選手やコーチとのコミュニケーションの取り方などの難しさです。自分が吹くだけでなく、様々な試合を見学して多くの方上級審判員とお話できて、今まで自分になかった新しい考え方や捉え方に気づきを見つけられた事で非常に充実した二日間を過ごすことができました。有難うございました。</p> <p>今回の経験を県内に還元していけるように私自身もさらに研鑽を積んでいきたいと思っておりますのでご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。</p>	

県外派遣報告書

審判員名(報告者)	齊藤 大地	所属	U15連盟
大会名	令和7年度 関東高等学校男子バスケットボール大会		
期間	2025年 5月31日 ~ 6月1日(参加日: 5月31日)		
会場	京王アリーナTOKYO		
スケジュール			
期日	内容	場所	
5月 27日	審判会議、研修会	ZOOM会議 参加者自宅他	
5月 31日	1・2回戦	京王アリーナTOKYO	
審判会議、研修会 講義内容			
<p>●挨拶 東京都バスケットボール協会 専務理事 針生 淳男様 関東バスケットボール協会 審判委員長 平原 勇次様</p> <p>●指名審判員レクチャー 茨城県 菊池 瑞昭様 ~上級審判員になるために~ 覚悟・自分の決意向けて、どう取り組んでいくか？ 準備・ゲームに臨むにあたって自分ができることは何か？ 変化・昨日より今日、今日より明日 目に見える変化は難しいかもしれない。そこに至るまでの努力や積み重ね→そのために振り返る。</p> <p>レフェリー活動を続けていくにあたって 審判が上手になりたい→同じくらい仕事、家庭の両立を大事にしなければならない。 いろんな狭間がある中で、自分が大事にしたいことは何か？ どれだけ自分の時間を作っていけるか？ = 「覚悟 覚悟が変わると、ゲームに臨む「準備」が変わってくる。 (判定の良し悪しだけでなく、必要性やフロー。選手と同じ方向を向けていたのかetc...) そのためにチャレンジ→成功or失敗→振り返り→新たな課題設定→チャレンジの繰り返しが「変化」を生む。</p> <p>神奈川県 加納 康平様 ~良い審判とは？~ 良い審判とは…？ →正しい判定、選手がストレスなくゲームに集中できる、ルールやメカの理解、カッコいい、プレゼン等</p> <p>色々な答えがある中で、自分自身はどんな審判になりたいのか？ビジョンを描いてほしい。 →だからと言って、この2日間で劇的に変わるということは難しい…でも近づけることはできる！ チャレンジすることで、新しい気付きや自分を変えるきっかけを見つけ出して欲しい。</p> <p>高校生の関東大会→高校生と思わず、1人の選手として接してほしい。 そのために意図的にコミュニケーション(会話)を増やしてほしい。 →1回のやりとりではなく、何回もラリーすることで選手のインテンシティーをコントロールしたり、時には自分が伝えたいことを聞いてもらう。 自分が言いたいことを聞いてもらうためには「傾聴」から！</p>			
担当試合①			
期日	5月31日(土) Bブロック1回戦		
対戦カード	専修大附属高等学校(東京) vs 山梨学院(山梨)		
クルー	CC 三浦 弘義氏(神奈川) U1 齊藤 大地(埼玉) U2 藤木 千仁氏(栃木)		
ミーティング内容	審判主任: 中嶽 希美子氏(千葉)		
<p>【ゲーム前のPGC</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベーシックなメカ・それぞれのプライマリーの確認 ・各々の課題の確認 ・山梨学院の留学生への守り方 <p>【ゲーム後のミーティング】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれのクルーが今、出せる力を発揮していたように見える。その中で見つかったよかった点や新たな課題については、次のステップに向けて生かしてほしい。大事なことは、この場でしかできない経験を積み重ねていくこと。独特の緊張感や選手の熱量などを忘れずに県内に還元してほしい。 			

- ・メカミスがあったが、そういう時こそクルーワークが発揮される。それぞれが「気付き」を大事にすれば、問題はない。
 - ・両チームの足元の整理。コールできる場面がいくつかあった。適切なタイミングで笛を入れることで、ゲームがより締まっていき、正しい方向に導くことができる。
- アンダーのカテゴリーこそ、トラベリングをよく見極めてほしい。結果、選手の技術向上に繋がる。

全体の感想

初めに男子関東大会という場でオンザコートできる機会をいただけたこと、大変嬉しく思います。違うカテゴリーのブロック大会ということで、選手の技術や熱量、会場の雰囲気等、刺激を受ける場面が多く、貴重な経験をさせていただきました。また、A級審査ということもあり、選手以上にクルー間でも独特の緊張感がありましたが、事前のPGCやコミュニケーションを多く図り、集中してゲームに臨むことができました。今、出せる力は発揮できたとは思いますが、その中で「プレーを捉える時間を増やす」「影響まで見たペイシエント・ホイッスル」など新たな課題も見つけることができました。結果としては、県内の期待の応えることができず、悔しい思いでいっぱいです。現状に満足せず、より高みを目指して次年度、この場に帰ってきたいと思います。

最後になりますが、今大会の派遣にあたりご配慮いただきました埼玉県バスケットボール協会の皆様をはじめ、関東ブロック審判長 平原様、指名審判員としてご講義くださった平出様、菊池様、加納様、大会運営に尽力いただきました東京都バスケットボール協会の役員の皆様に感謝申し上げますと共に、今後もより一層審判活動に励んでいきたいと思っております。ありがとうございました。